

カルーセルエルドラドの歴史について

1907年ドイツの機械技術者ヒューゴー・ハッセによって彼の最高傑作となるカルーセルが造られました。ヒューゴーはこれにより「遊園地業の王様」と呼ばれるようになり、ヨーロッパのカーニバルを巡業しながら、各地で歓迎を受けていました。ドイツでは戦争が起こりそうな不穏な空気が流れ出します。そんな時、アメリカのルーズベルト大統領がドイツを訪れます。それをきっかけに、ヒューゴーは大切なカルーセルをアメリカへ移すことを思いつき、1911年に弟を同行させてニューヨークの遊園地へと移動させました。

豪華なカルーセルは「エルドラド(黄金郷)」と名付けられアメリカの人達にとっても愛される存在となります。

1950年代に入ると土地代が値上がりし、遊園地経営が困難になります。1964年には、ついに遊園地を閉鎖することとなり、市民に愛されたエルドラドは解体され倉庫に収められました。

それから4年。売りに出されたエルドラドを豊島園が買い取り、2年の歳月を掛けて修復され、1971年から再び、豊島園で回り始めました。



カルーセルエルドラド全景



手掘りの木馬は1頭ずつ表情が異なる



豪華な装飾がされたゴンドラ



ヨーロッパでは幸福を呼ぶとされる豚も

～カルーセルエルドラドの報道記事やエピソード～(詳細は別途、資料有り)

『日本に船出するコニーアイランドの回転木馬』 ニューヨークタイムス 1969年3月15日

「パークが閉鎖された1964年に至る期間、コニーアイランドの王者的存在であったカルーセルエルドラドが東アジアの東京の豊島園アミューズメントパークに売られていった」と報じている。

『さよなら「エル・ドラド」』 SUNDAY NEWS NEW YORK 1969年3月16日

「ブルックリン波止場第8棧橋にエルドラドを見送った人々には、さよならエルドラドと鼻をつまらせる人もいた」と、ため息と涙の離別劇を報じている。

『流転の回転木馬「エル・ドラド」』 夕刊フジ 1969年4月9日

上記ニューヨークタイムスやSUNDAY NEWSの記事を引用して「米から1億円で身売り／ニッポンの坊や遊んでネ」「みごとな彫刻、塗り／悲しむニューヨークっ子」「米でも経営不振／買った豊島園さわがれてビックリ」と紙面2面を使い、様々な写真と共に掲載されました。

『カルーセルと製作者ヒューゴー・ハッセ』 ラインハート A コーラー博士のレポートより 1971年2月6日

1910年前のアメリカ大統領ルーズベルトがウィルヘルムⅡの招きでドイツを訪問した際にヒューゴーはカルーセルをアメリカのニューヨーク・コニーアイランドに移すことを考えた。理由として、
①特大カルーセルにはヨーロッパマーケットは小さ過ぎること。②ヨーロッパの遊園地にはシーズンがあること。③戦争が勃発しそうな不穏な動きが感じられたこと。
それらを理由に、責任者として弟を同行させ、カルーセルをニューヨークに送り出した。

『まわれエルドラド！』 SKDミュージカル公演 1982年夏

エルドラドを背景に回転木馬の波乱に満ちた生涯をひとりの少女を通して愛と幻想で描く本格的ミュージカル。エルドラドと名付けられた回転木馬はドイツで造られたが、75年経って東京にあることが驚きであった。75年間も活躍してきた回転木馬自体を主人公にストーリーを構成しても面白いのではないかと開催された。

『エルドラドを返してほしい』 コニーアイランドリゾート社 社長 1985年10月12日

1985年10月12日突然コニーアイランドリゾート社社長代理人より「900万人以上のアメリカ人がこのカルーセルに乗って楽しんでいた」「スティープルチェースパークを運営するにあたりたりないものの2つのうちひとつがエルドラドです」「復元できるように買い戻す機会を持ちたい」「代替りのカルーセルを提供する用意もある」との内容の手紙が届く。

米国大使館広報文化交流局 1985年10月25日

「ニューヨーク市の素晴らしい歴史的遺産でした」「ニューヨーク市民とその子供達のために戻すことが重要なのです」「返却のために貴社のご援助が重要であり、ひいては日米両国の関係にも貢献するでしょう」との内容の手紙が届く。

在ニューヨーク日本国総領事 宇川大使 1985年12月6日

「コニーアイランド社長より貴社所有のエルドラドの譲渡を受けたいとする手紙に対して、本職からは当事者間で直接応答するような通知しますので宜しくお願いします」との内容の手紙が届く。

豊島園よりコニーアイランドリゾート社 社長宛 1985年12月22日

「スティープルチェイスパーク復元計画を聞き、大変嬉しく思います」「当園にて復元の努力を重ね生まれ変わらせました」「豊島園のシンボルであり、唯一無二の宝物です」「残念ながらご要望にお応え出来ません」との内容の手紙を送付。

『カルーセルエルドラド機械遺産に認定される』 社団法人日本機械学会 2010年8月7日

20世紀初頭のオールニューヴォー洋式の装飾が施された芸術品と機械技術がみごとに融合した顕著な例として、現存する最古の回転木馬であるカルーセルエルドラドが日本機械学会より機械遺産第38号として認定されました。